

専念寺通信

2月号 (NO.162) <http://sennenji.s296.xrea.com/>

2月に入り、穏やかな天候の日が続いています。春を思わせる日もあり、つぼみの膨らみ始めている梅の木を夏目坂でみかけました。とはいえまだまだ冬、みなさま、お風邪をひいてらっしゃいませんか。『通信』の162号をお送りします。この『専念寺通信』も発行から13年以上がたちました。

☆住職交代のご案内

皆さまには封書にてご案内させていただきましたが、専念寺の21世住職、守中高明は健康上の理由により、今月、専念寺の住職をしりぞくこととなりました。先代の補佐役をしていたころから数えますと約30年以上、また住職就任からは約19年、皆さまに支えられ法務をつとめて参りました。今のところ、定期的な通院・検査は必要ではありますが、日常の生活はそれほどの問題なく送ることができます。新住職として、現在、副住職をつとめております、娘婿の小沼久志が第22世の住職に就任することとなりました。まだまだ至らぬところの多い婿でございますが、懸命につとめて参ります。また、現住職も後見役として今後も長年の経験を生かし、法務に滞りの生じないよう、指導と助言を続けて参ります。大黒は今までと同様に働きます。娘はいわば、見習い大黒として勤務させて頂きます。家族でちからを合わせて、長く保ってきたこの寺の美風を守り法灯の護持につとめさせて頂きます。



☆方丈さん

住職のことを方丈さんと呼ぶことがあります。「方丈」とはもともと寺院の座敷のことで、一丈(約3メートル)四方の正方形の部



屋に寝起きして生活していることから、寺の住職の別名になりました。浄土宗用語集によりますと『維摩経』(ゆいまきょう)の主人公である維摩居士が、一丈四方の狭い部屋で一生を送りながら無限の境地に達したという故事から、住職の尊称となったとのこと。

☆大黒さん

住職の妻を大黒(だいこく)さんと呼びます。中村元著『仏教語散策』によりますと、シナの僧、義浄三蔵(635-713)が671年にインド各地を遊学し、その後書いた見聞記のなかに大黒神の記述があり、「食厨の柱側、あるいは大庫の門前にあり」「二尺、三尺にして、黒色の形を為す」ちいさな守り神があった、というのです。この記述が根拠となり、大黒神は厨房(台所)の守り神、のちに寺の庫裏を守る存在として僧侶の妻の意味になったのです。専念寺の、新しい「方丈」、「見習い大黒」を今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

写真は中庭の椿、そして檀家さま手作りのどんぐりのストラップです。かさの部分は本物のどんぐりです。丁寧に作られた檀家さまの優しい思いが伝わります。大玄関にぎんなんのお守りと一緒に置いてあります。寒さ厳しい季節、皆さまどうかお大切になさって下さい。

平成26年2月1日 大黒

